

ナルニア国物語

魔術師のおい

16

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第16話 街灯下の乱闘(後編)

ここは
からっぽの世界じゃ



《無》の
世界じゃ



《無》の世界……

星ひとつない
漆黒の闇

足の下には
冷たくて平らな
何か

まさに
その通りかも
しれない

おたがいの
姿さえ
まったく見えない……

……わが命運も

ついに
尽きたか

ああ…

そのような
ことを
おっしゃい
ますな

わが親愛なる
若きレディよ

どうか
そのようなことを
おっしゃいますな

そんなに
悪いことでは
ないはずです

——ああ

そうだ
御者さん

フラスクを
持ちあわせでは
ないかね？

酒が一口あれば
落ち着くんだが——

まあまあ

みなさん

どうかひとつ
落ち着いてください

骨の折れた方は
おりませんか？

よかった

とりあえず
それだけでも
ありがたい
ことでさ

あんなふう
に落っこちたあとしや

ありえないような
幸運でさ

ここが何か
工事中の穴に
落っこちたんだと
したら……

——たとえば
地下鉄の新しい駅とか
ですがね——

そのうちに
誰かやってきて
助けてくれるはず
ですよ



…で

もし
おっ死んじ
まったんだと
したら――

…ありえないとは
言えませんがね…

――だと
したら

まあ

海で何かあったら
もっとひどい目に
あうわけだし

人はどうせいつか
死ななくちゃ
ならんわけですから

まっとうに
生きてきた
人間なら

心配
することは
何もありや
しません

あたしの
考えを
言わして
もらうなら

時間を
やりすごすのに
いちばん
いいのは

讚美歌を
歌うことだと
思いますよ

Come, ye thankful people, come



Raise the song of
harvest home



All is safely
gathered in

God our Maker
doth provide



Ere the winter
storms begin





Come to God's
own temple, come



For our wants
to be supplied

Raise . . .



フランドー!!



それに
葉巻のにおい?



指輪を
つけなさい



さっさと
おさらばしよう…

愚か者め！





わらわが
人間の考えを
聞きとれると
言ったのを

忘れたか？

その小童^{こわっぱ}から
手を放せ

わらわを
裏切ろうと
する者には

あらゆる世界で
時の初めより
誰も聞いたことが
ないような
仕返しをしてやる

それに

ぼくのことを

こんな場所に
ポリーを
残して――

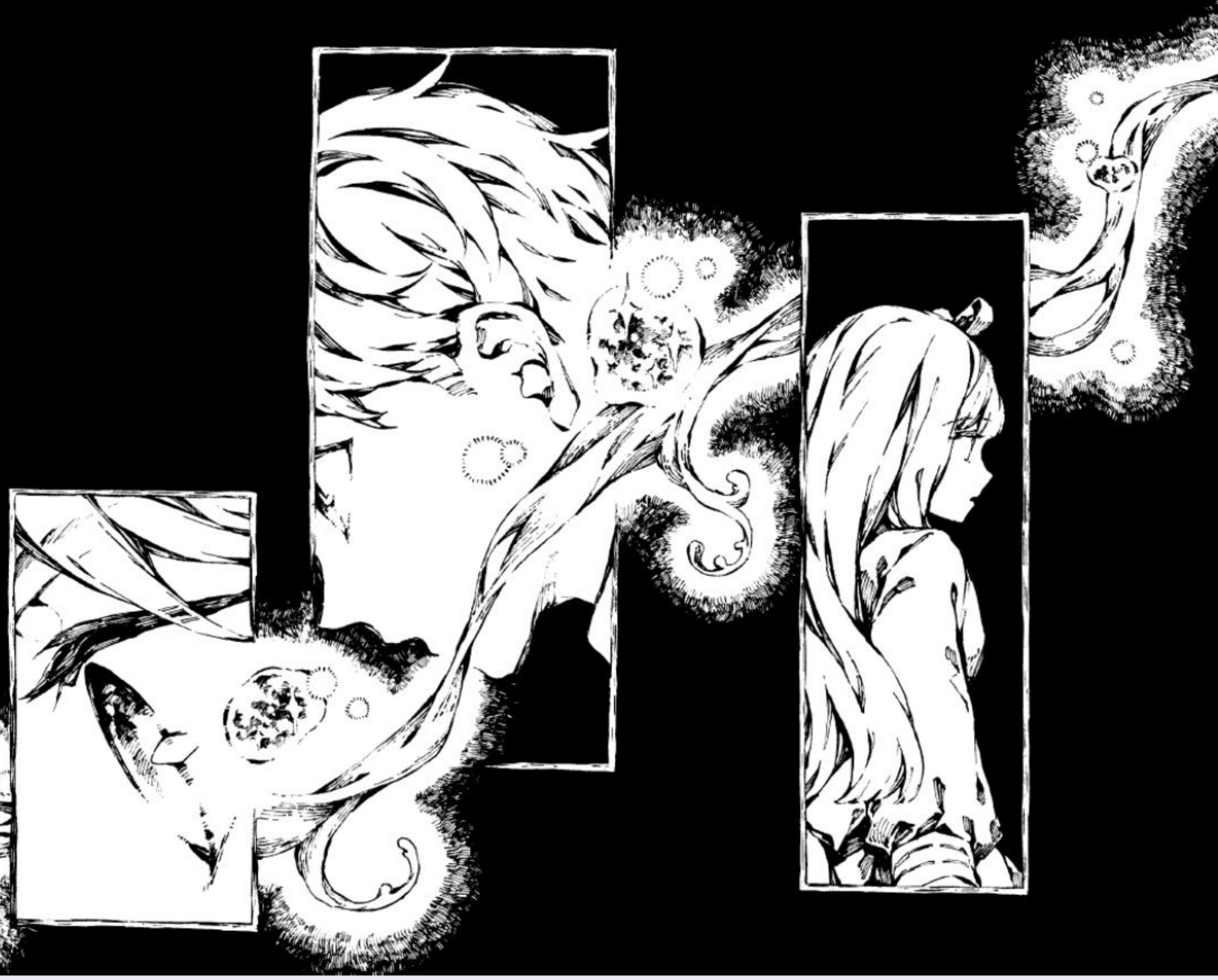
――あと
御者さんと
馬も残して

自分だけ
帰ろうとするような
人でなしだと
思ってるのなら

大まちがい
ですからね

……なんと
聞き分けのない
礼儀知らずな
小僧だ

しっ！



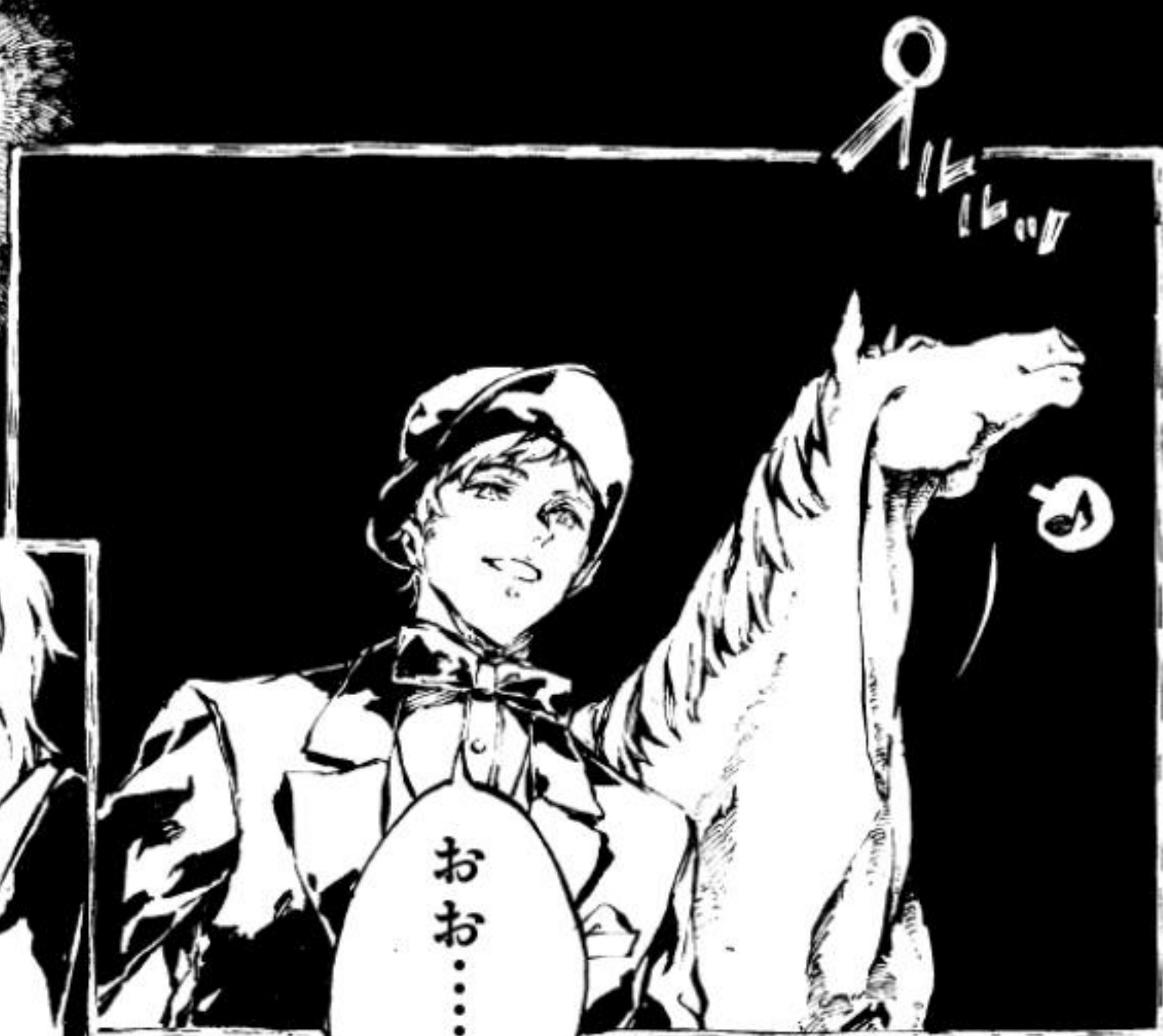
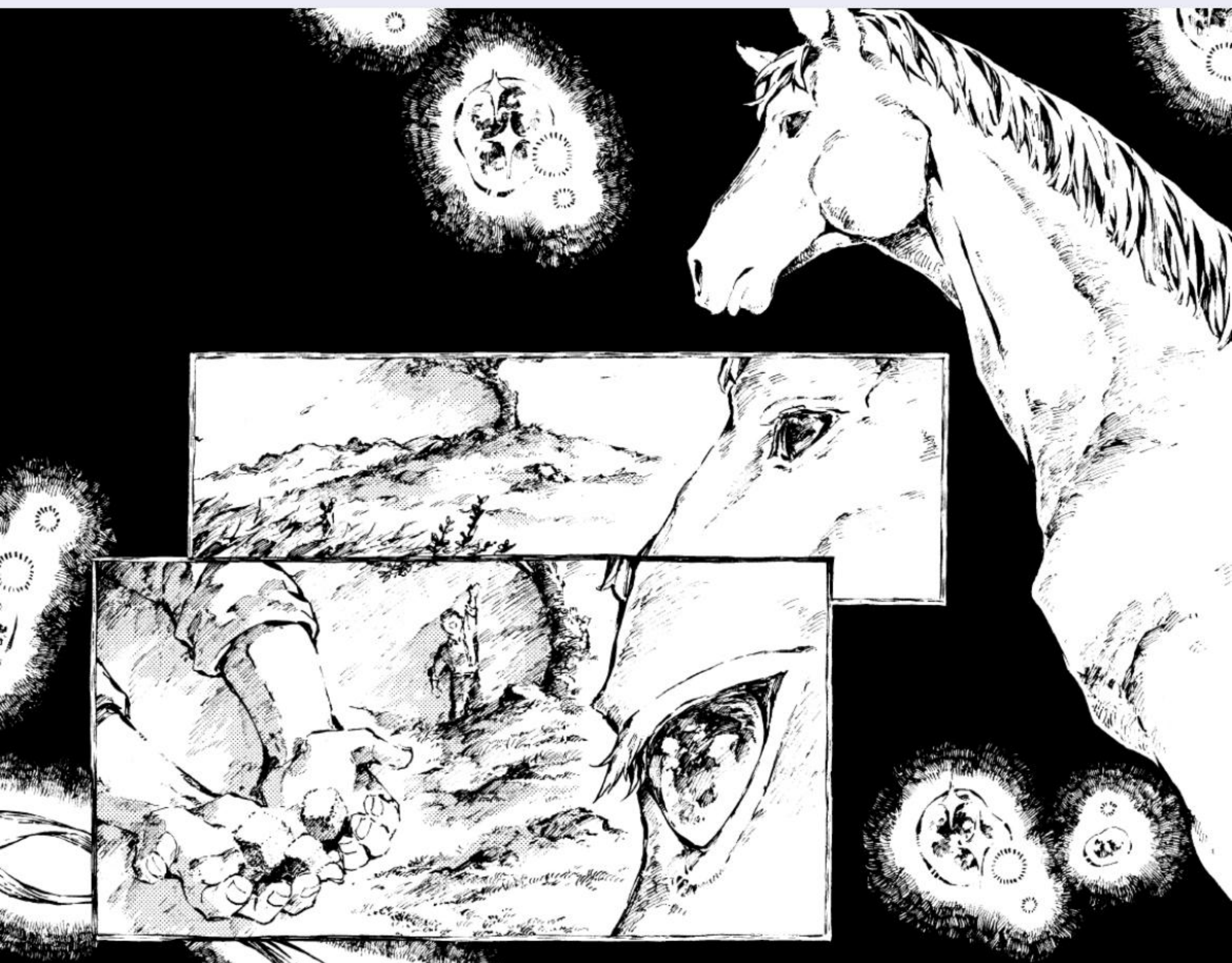




歌?



なんて
美しい歌
なんだろう！



おお……！



すてきな歌じゃ
ありませんか？



空から声……？



や……

星たちが
歌っているんだ

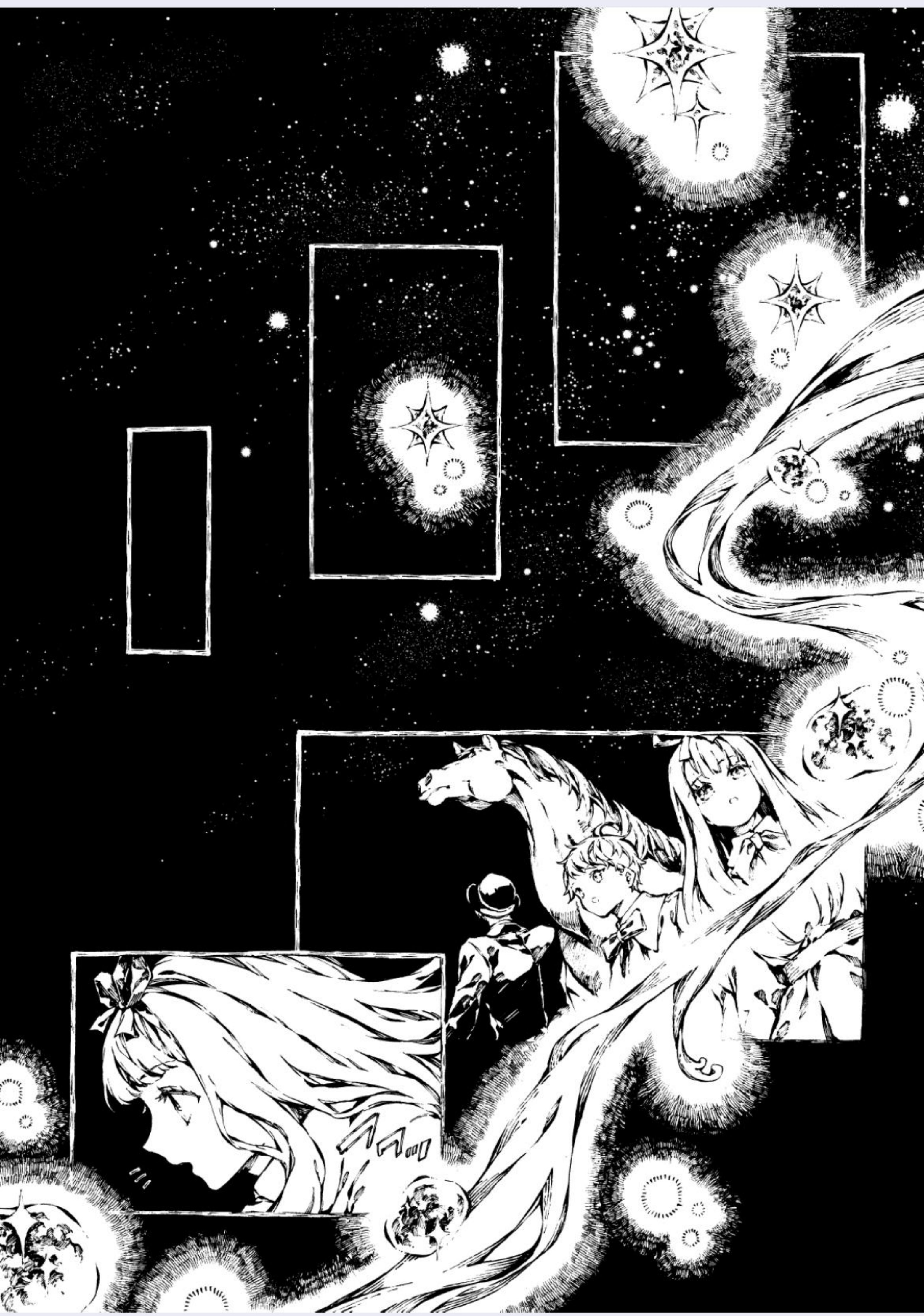
最初の声が

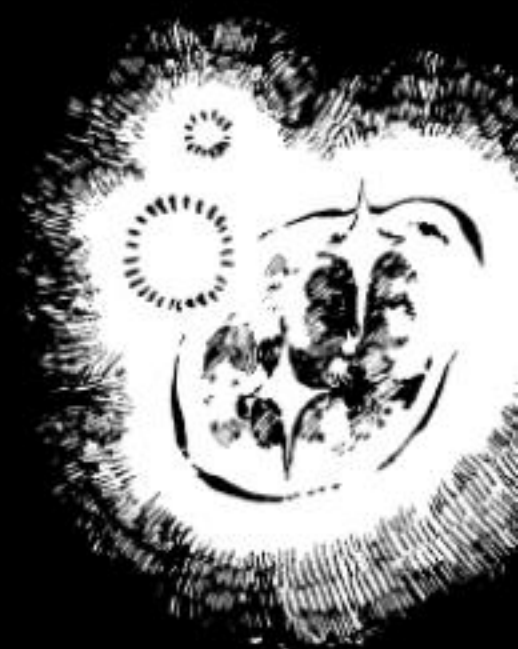
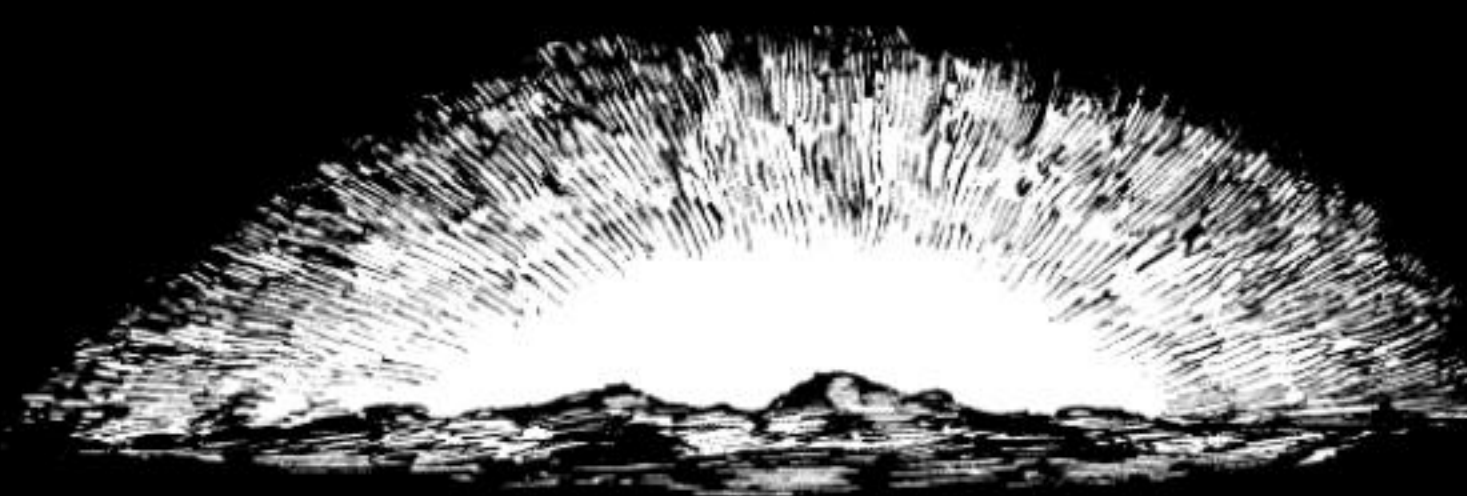
星々を空に配して
歌わせているんだ……!

神に
栄えあれ!

こんなことが
あると
知ってたら

あたしやもつと
ましな人間に
なっていたら
うがなあ





…この世界
全体が

わらわの魔法とは
ちがう魔法で
満たされておる



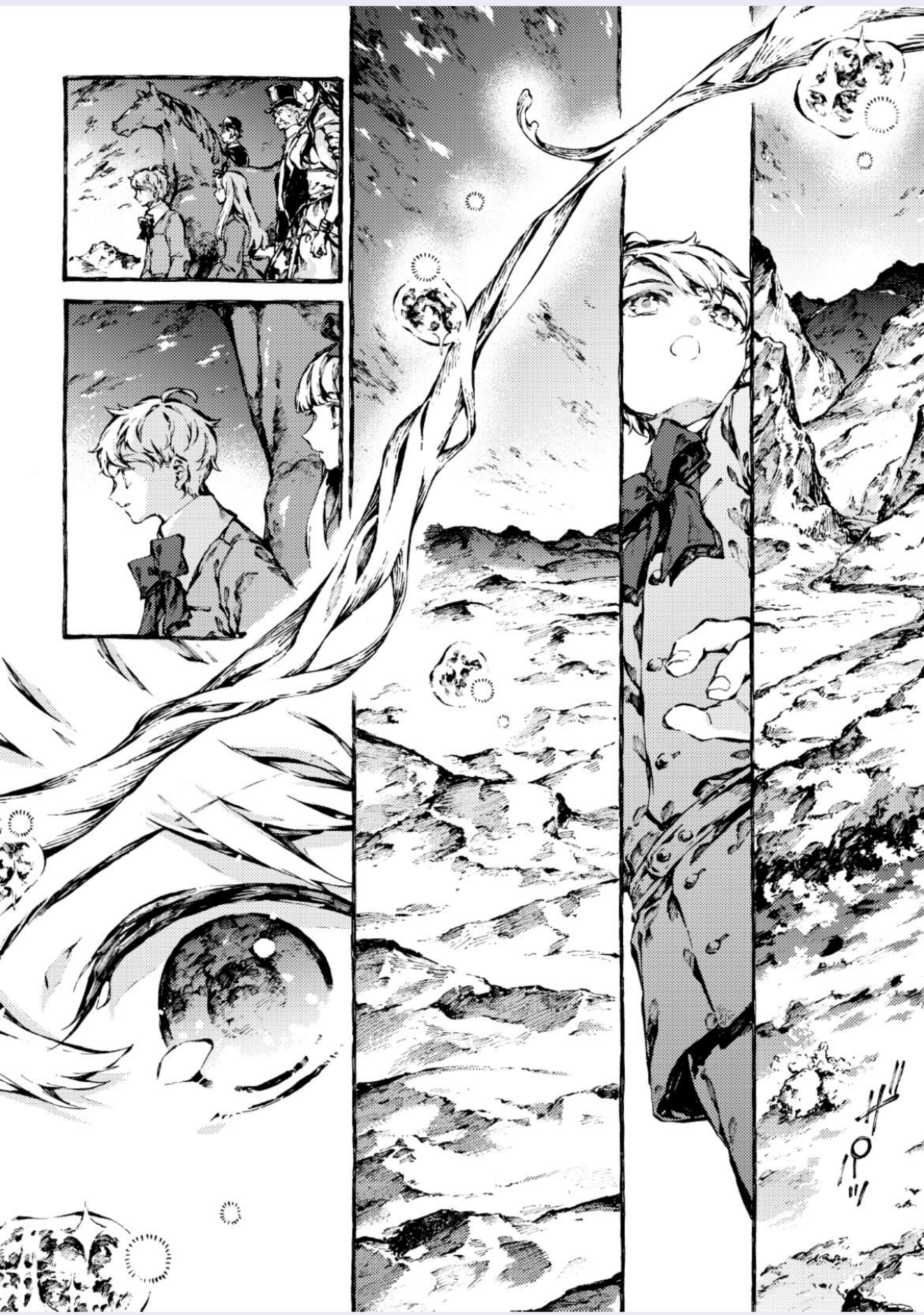
それも

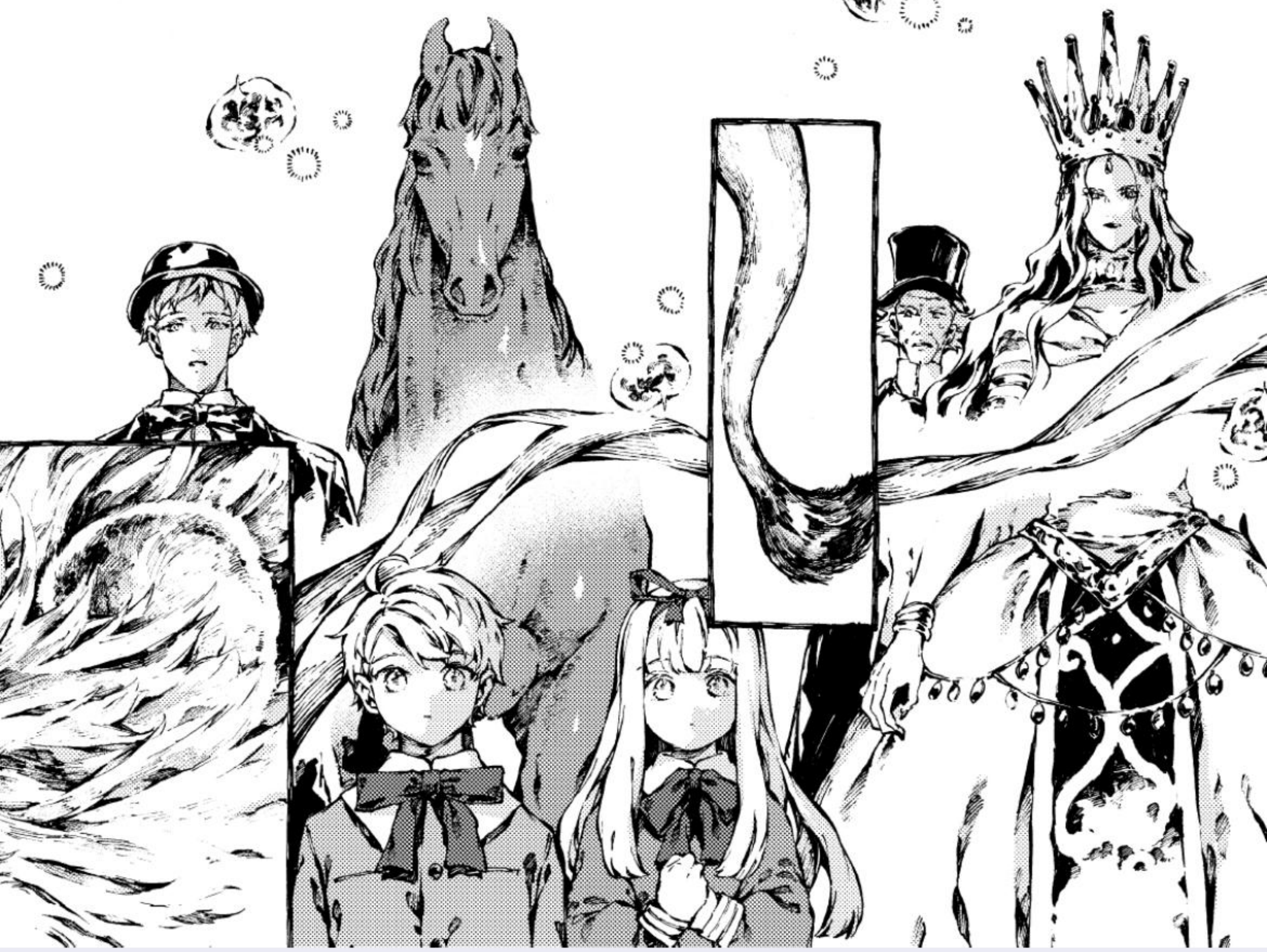
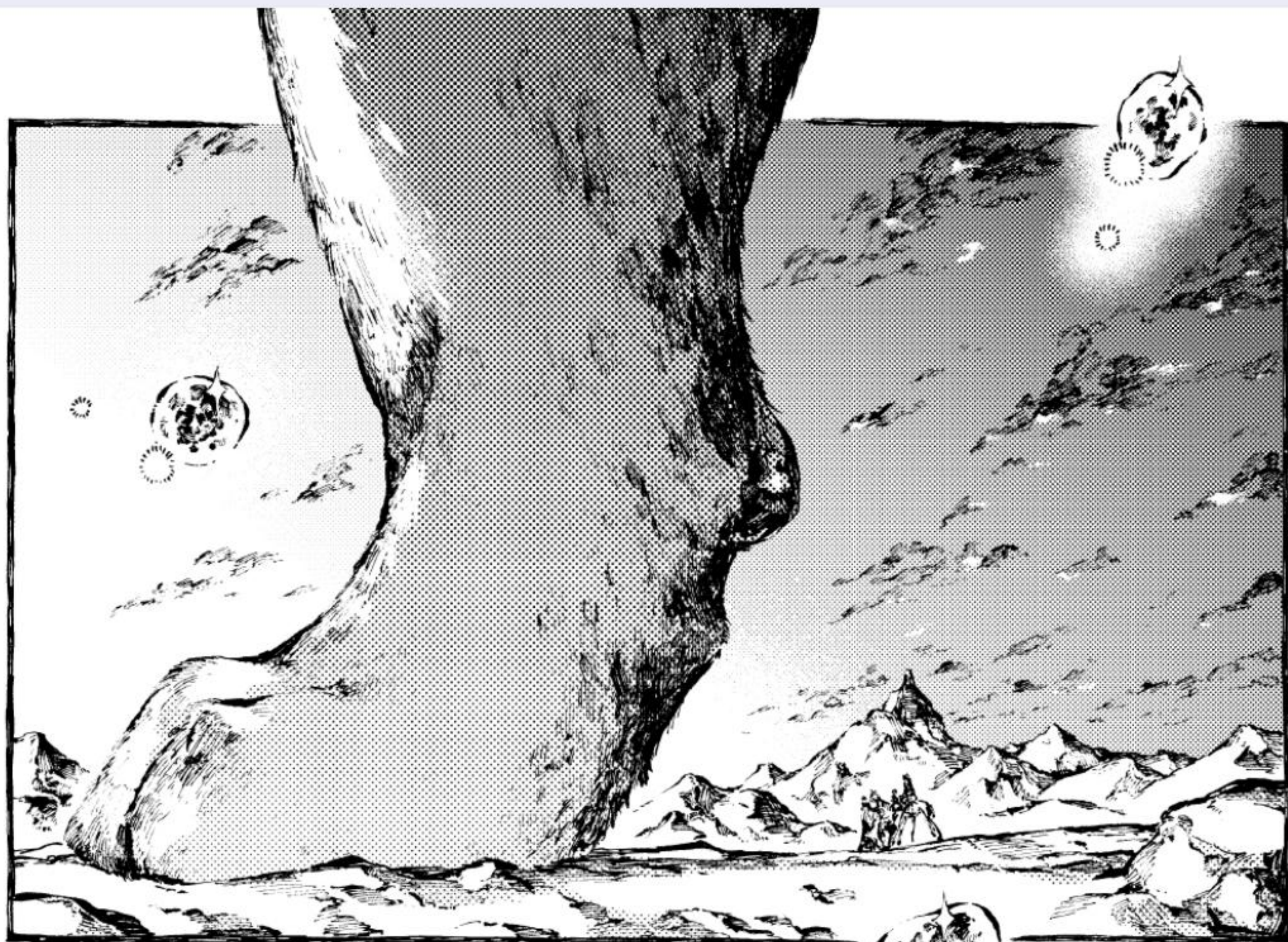
わらわの魔法より
強い魔法で……





















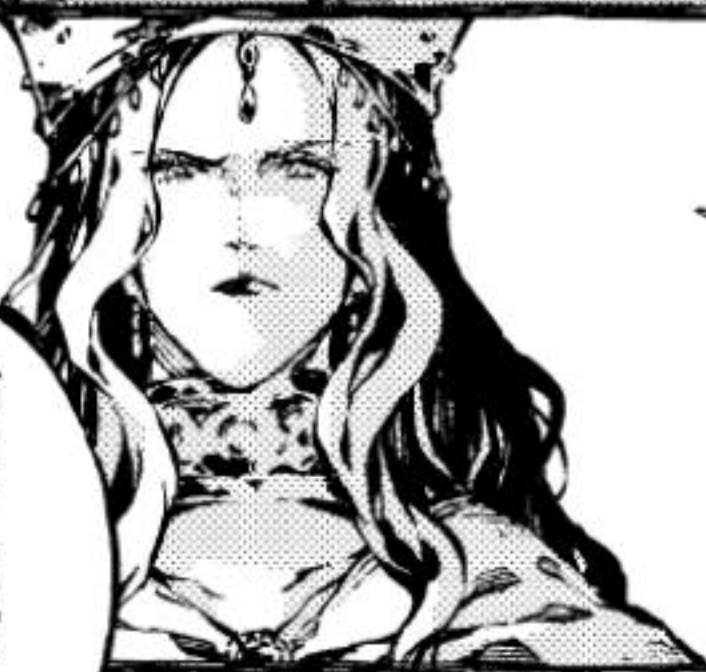
気を
つけろ！

おまえたちの
どちらでも

あと一センチだつて
ぼくたちに
近づいてみる

ぼくたち二人とも
この世界から消えて

おまえたちを
ここに永久に
置き去りに
してやる



そうさ

ぼくの
ポケットには
ポリーとぼくを
家に連れもどしてくれる
指輪がはいっている

いいか

よく見ろ！

ぼくの手は
いつだって
指輪に届くように
なっている

だから

ぼくたちから
離れてろ

おじさんには
すまないと思うけど

それに馬も
気の毒だと思
うけど……

しかたない

あんたたち二人は
両方とも
魔術師なんだから

いっしょに楽しく
暮らせばいいさ

みなさん

お静かに



この音楽が
聞きたいんです

あたしや

つづく